

第4 その他（要素訓練等）

1 通信連絡訓練

(1) 目的

原子力災害時の初期対応における通信連絡手順や応急活動を確認し、道及び関係町村担当者の対応能力の向上を図る。

(2) 内容

北海道地域防災計画（原子力防災計画編）等に基づき整備した通信連絡設備等を使用し、通信連絡に必要な機器の取扱いや情報の伝達手順などを確認。

(3) 参加機関 … <20>

原子力規制庁泊原子力規制事務所、北海道、泊村、共和町、岩内町、神恵内村、寿都町、蘭越町、二セコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村、岩内・寿都地方消防組合、北後志消防組合、羊蹄山ろく消防組合、北海道警察、北海道電力(株)

(4) 実施日（11回）

令和4年4月27日、5月19日、6月9日、7月7日、8月10日、9月8日、9月15日、11月22日、12月8日、令和5年1月16日、3月14日

※令和4年8月10日は、避難先等となる、札幌市、小樽市、島牧村、黒松内町、真狩村、留寿都村、喜茂別町、京極町、洞爺湖町、豊浦町、長万部町、千歳市、伊達市、室蘭市、苫小牧市、登別市、壮瞥町、白老町、北広島市、江別市、むかわ町、安平町、厚真町も参加。

※令和4年8月10日は要員派遣訓練（オフサイトセンター参集訓練）も実施。

※令和4年9月15日は、国（内閣府、原子力規制庁）との緊急時通信連絡訓練を実施。

2 原子力災害対策本部及びオフサイトセンター訓練（図上演習）

(1) 目的

関係自治体や防災関係機関の災害対策要員を対象に、オフサイトセンターの運用に関する知識・技術の習得・向上を図る。

(2) 内容

ア 原子力災害対策指針や原子力災害対策マニュアル等の研修及び機器操作実習
イ オフサイトセンター運営訓練（図上演習）

(3) 参加機関… <17>（参加人数 延べ138人）

内閣府、経済産業省北海道経済産業局、環境省大臣官房環境保健部、原子力規制庁（泊原子力規制事務所）海上保安庁第一管区海上保安本部、陸上自衛隊北部方面総監部、北海道、泊村、共和町、寿都町、蘭越町、倶知安町、仁木町、余市町、赤井川村、北海道電力(株)、東芝ITサービス(株)

(4) 実施日

実施日	実施内容
令和4年8月18日～19日	原子力災害対策指針等の研修、機器操作実習、オフサイトセンター運営訓練（図上演習）

3 緊急時環境放射線モニタリング訓練

(1) 目的

道緊急時モニタリング班の要員を対象に、緊急時モニタリング活動を円滑に実施できるよう、知識の習得、技術の習熟、チームワークの形成を図る。

(2) 内容

- ア 教養コース 原子力防災に関する国や道の計画・緊急時モニタリングセンターの活動について
- イ 専門コース 緊急時モニタリングセンターの各班の業務及び資機材の取扱い等について
- ウ 総合コース 緊急時モニタリング活動に係る実習等について

(3) 参加機関 … <15> (参加人数 延べ173人)

北海道、泊村、共和町、岩内町、神恵内村、寿都町、蘭越町、二セコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村、北海道電力(株)

(4) 実施日

実施日	実施内容
①令和 4年 9月 26日 (共和町)	教養コース
①令和 4年 8月 1日 (共和町) ②令和 4年 8月 2日 (共和町) ③令和 4年 8月 15日～16日 (共和町) ④令和 4年 8月 31日 (共和町)	専門コース ※ ①,②,④は実動班対象 ※ ③は意思決定班対象 ※ ①～③は原子力規制庁と共催
①令和 4年 10月 25日 (共和町) ②令和 4年 10月 26日 (UPZ内13町村、札幌市) ③令和 4年 10月 27日 (共和町)	総合コース ※ ①～②は実動班対象 ※ ③は意思決定班対象

4 原子力災害医療研修会

(1) 目的

地域の原子力災害医療の実効性を確保し、原子力災害医療に関する知識及び技術の習得・向上を図る。

(2) 内容

- ア 避難圏域時検査・簡易除染に係る基本的知識の習得と実践 (実習)
- イ 安定ヨウ素剤に係る基本的知識の習得と実践 (WEB)
- ウ 医療機関の対応に係る基本的知識の習得と実践 (実習)
- エ 被ばく傷病者等搬送に係る基本的知識の習得と実践 (実習)

(3) 参加機関… <19> (参加人数 延べ66人)

札幌医科大学付属病院、北海道社会事業協会岩内病院、北見赤十字病院、伊達赤十字病院、医療法人深仁会手稲溪仁会病院、医療法人社団二セコ脳神経外科、古平町立診療所海のまちクリニック、海上保安庁第一管区海上保安本部、陸上自衛隊、札幌市消防局、岩内・寿都地方消防組合、羊蹄山ろく消防組合、北後志消防組合、泊村、岩内町、神恵内村、積丹町、余市町、北海道

(4) 実施日

実施日	実施内容
令和4年9月8日 (小樽市)	安定ヨウ素剤の配布【13名】
令和4年9月16日 (札幌市)	避難圏域時検査・簡易除染【28名】
令和4年10月18日 (岩内町)	医療機関の対応・傷病者搬送【25名】

5 その他研修

研修名	実施日	実施内容	対象者
原子力防災基礎研修	①令和4年7月12日（札幌市） ②令和4年7月14日（倶知安町） ③令和4年7月15日（倶知安町）	放射線の基礎、資機材の取扱い等	防災業務関係者 （95人）
原子力災害対策要員研修	①令和4年7月27日（倶知安町） ②令和4年7月28日（倶知安町）	原子力防災業務に必要となる住民防護等	防災業務関係者 （82人）
放射線防護施設研修会	令和4年9月6日（余市町）	放射線防護施設の運用等	施設関係者等 （18人）
民間事業者研修会	①令和4年9月14日（札幌市） ②令和4年9月15日（倶知安町）	放射線の基礎、資機材の取扱い等	①バス・トラック・建設業関係者（26人） ②社会福祉施設関係者（17人）
バス事業者に対する出前研修	令和5年3月27日（WEB開催）	放射線の基礎、原子力防災対策の概要、バス要請・運行要領の概要等	バス事業者

6 地域学習会

町 村	実施日	実施内容	対象者
泊 村	令和4年10月31日	原子力防災の基礎知識	住民
	令和5年2月17日		泊中学校
共 和 町	令和4年7月20日	原子力防災の基礎知識	共和中学校
	令和4年9月12日	原子力防災の基礎知識	東陽小学校
岩 内 町	令和4年9月8日	原子力防災の基礎知識	岩内西小学校
寿 都 町	令和4年10月31日	原子力防災の基礎知識	住民
蘭 越 町	令和4年5月12日	原子力防災の基礎知識など	住民
	令和4年11月26日		
	令和5年3月11日		
二 せ こ 町	令和5年3月6日	原子力防災の基礎知識	近藤小学校
積 丹 町	令和4年10月31日	安定ヨウ素剤の概要について	住民
古 平 町	令和4年10月31日	放射線に関する基礎研修	住民
余 市 町	令和4年10月25日	放射線に関する基礎知識など	黒川小学校
	令和4年10月31日		住民

北海道原子力防災訓練の実施状況（平成 24 年度（2012 年度）～令和 4 年度（2022 年度））

訓練は、昭和 63 年度以降毎年度実施しているが、参考として、福島第一原発事故以降の訓練実施状況を掲載する。

年度 項目	平成 24 年度 (2012)	平成 25 年度 (2013)	平成 26 年度 (2014)
訓練目的	原子力防災に関する防災体制の確立と防災業務関係者の防災技術の向上を図り、併せて防災意識の高揚を図る。		
訓練態様	総合訓練	総合訓練	総合訓練
訓練実施日	平成 24 年 10 月 24 日 (水)	平成 25 年 10 月 8 日 (月)	平成 26 年 10 月 24 日 (金)
訓練時間	8:30～14:00	8:30～15:40	8:30～15:40
参加機関	267 機関	275 機関	352 機関
参加人員	▽9,116 人 [防災業務関係者 2,236 人] [住民参加者 6,880 人]	▽10,036 人 [防災業務関係者 2,287 人] [住民参加者 7,749 人]	▽13,130 人 [防災業務関係者 1,857 人] [住民参加者 11,273 人]
事故想定	冷却機能喪失事故 (地震との複合災害)	冷却機能喪失事故 (地震との複合災害)	冷却機能喪失事故 (地震との複合災害)
訓練項目 (訓練内容)	1 災害対策本部等設置訓練 (1)原子力災害対策本部等設置運営訓練 2 緊急時通信連絡訓練 3 緊急時環境放射線モニタリング訓練 [測定 127 地点・2 ルート] 4 広報訓練 (1)緊急速報メールの配信 等 5 退避等訓練 (1)住民避難、屋内退避 [参加住民] <input type="checkbox"/> 泊村 253 人 <input type="checkbox"/> 共和町 932 人 <input type="checkbox"/> 岩内町 1,773 人 <input type="checkbox"/> 神恵内村 117 人 <input type="checkbox"/> 寿都町 181 人 <input type="checkbox"/> 蘭越町 123 人 <input type="checkbox"/> 二セコ町 33 人 <input type="checkbox"/> 倶知安町 725 人 <input type="checkbox"/> 積丹町 261 人 <input type="checkbox"/> 古平町 382 人 <input type="checkbox"/> 仁木町 470 人 <input type="checkbox"/> 余市町 1,477 人 <input type="checkbox"/> 赤井川村 153 人 (2)退避所等開設等訓練 (3)災害時要援護者搬送訓練 (4)立入(交通)規制 6 緊急被ばく医療活動訓練 (1)救護所設置、措置 [3 箇所、292 人措置] (2)安定ヨウ素剤晒記布準備 (3)負傷者搬送 (4)除染施設の設置・運営 7 住民生活保全訓練 (1)生活必需品の搬送 等 8 その他 (1)原子力防災資機材等展示 (2)原子力防災研修会開催 等	1 災害対策本部等設置運営訓練 (1)原子力災害対策警戒本部・災害対策本部設置運営訓練 2 緊急事態応急対策等拠点施設 (代替 OFC※) 運営訓練 (1)オフサイトセンターの立上げ (2)現地事故対策連絡会議の開催 (3)原子力災害合同対策協議会の運営 3 緊急時通信連絡訓練 4 緊急時環境放射線モニタリング訓練 [測定 195 地点・4 ルート] 5 広報訓練 (1)緊急速報メールの配信 (2)ラジオでの情報の提供 等 6 退避等訓練 (1)住民避難、屋内退避 [参加住民] <input type="checkbox"/> 泊村 235 人 <input type="checkbox"/> 共和町 876 人 <input type="checkbox"/> 岩内町 956 人 <input type="checkbox"/> 神恵内村 87 人 <input type="checkbox"/> 寿都町 164 人 <input type="checkbox"/> 蘭越町 553 人 <input type="checkbox"/> 二セコ町 436 人 <input type="checkbox"/> 倶知安町 1,753 人 <input type="checkbox"/> 積丹町 104 人 <input type="checkbox"/> 古平町 410 人 <input type="checkbox"/> 仁木町 838 人 <input type="checkbox"/> 余市町 1,217 人 <input type="checkbox"/> 赤井川村 120 人 (2)災害時要援護者搬送訓練 (3)交通規制 (4)渋滞を想定した休憩場所及び食料・情報の提供 7 緊急被ばく医療活動訓練 (1)救護所設置、措置 [1 箇所、379 人措置] (2)負傷者搬送 (3)除染施設の設置・運営 8 住民生活保全訓練 (1)生活必需品の搬送 等 9 その他 (1)原子力防災資機材等展示 (2)原子力防災研修会開催 等	1 災害対策本部等設置運営訓練 (1)原子力災害対策警戒本部・災害対策本部設置運営訓練 2 緊急事態応急対策等拠点施設 (代替 OFC※) 運営訓練 (1)オフサイトセンターの立上げ (2)現地事故対策連絡会議の開催 (3)原子力災害合同対策協議会の運営 3 緊急時通信連絡訓練 4 緊急時環境放射線モニタリング訓練 [測定 202 地点・2 ルート] 5 広報訓練 (1)緊急速報メール (日本語・英語) の配信 (2)HP、ツイッター等の活用 等 6 退避等訓練 (1)住民避難、屋内退避 [参加住民] <input type="checkbox"/> 泊村 222 人 <input type="checkbox"/> 共和町 796 人 <input type="checkbox"/> 岩内町 1,806 人 <input type="checkbox"/> 神恵内村 266 人 <input type="checkbox"/> 寿都町 77 人 <input type="checkbox"/> 蘭越町 807 人 <input type="checkbox"/> 二セコ町 789 人 <input type="checkbox"/> 倶知安町 2,981 人 <input type="checkbox"/> 積丹町 249 人 <input type="checkbox"/> 古平町 636 人 <input type="checkbox"/> 仁木町 1,184 人 <input type="checkbox"/> 余市町 1,298 人 <input type="checkbox"/> 赤井川村 162 人 (2)学校・社会福祉施設等に対する避難指示等の伝達 (3)一時滞在場所設置・運営 (4)渋滞を想定した迂回路誘導や交通整理、休憩場所の提供 7 緊急被ばく医療活動訓練 (1)救護所設置、措置 [2 箇所、312 人措置] (2)負傷者搬送 (3)避難車両のスクリーング・除染 8 住民生活保全訓練 (1)生活必需品の搬送 等 9 その他 (1)原子力防災研修会開催 等
防護対策 地区 (避難対象町村等)	▽発電所から半径 30km の全方位 (UPZ 圏内 13 町村) [防護対策地区順次拡大] (北東→東南東→南)	PAZ:泊村、共和町 UPZ:神恵内村、積丹町、古平町、余市町	PAZ:泊村、共和町 UPZ:共和町、倶知安町、仁木町、赤井川村

※代替 OFC を後志総合振興局に開設

年度 項目	平成26年度 (2014)	平成27年度 (2015)	
訓練目的	原子力防災に関する防災体制の確立と防災業務関係者の防災技術の向上を図り、併せて防災意識の高揚を図る。		
訓練態様	要素訓練 (冬季・暴風雪)	総合訓練	要素訓練 (冬季・暴風雪)
訓練実施日	平成27年2月6日 (金)	平成27年10月21日 (水)	平成28年2月5日 (金)
訓練時間	9:00~11:20	8:30~15:40	9:00~12:00
参加機関	10 機関	378 機関	24 機関
参加人員	▽130人 [防災業務関係者 97人] [住民参加者 33人]	▽14,004人 [防災業務関係者 2,460人] [住民参加者 11,544人]	▽231人 [防災業務関係者 231人]
事故想定	冷却機能喪失事故	冷却機能喪失事故 (地震との複合災害)	冷却機能喪失事故
訓練項目 (訓練内容)	1 災害対策本部等設置運営訓練 (1)災害対策本部設置運営訓練 2 緊急時通信連絡訓練 (1)事故情報の伝達 (2)道によるオフサイトセンター機能の代行 3 広報訓練 防災行政無線等による住民広報 4 住民避難訓練 (1)バス避難集合場所の除雪・開設 (2)バス避難の実施 [住民 32人] (3)安定ヨウ素剤 (模擬) の緊急配布・服用 (4)大雪で孤立した住宅からの住民 (要配慮者) の救出 [住民 1人] 5 その他 (1)共和町と自衛隊による住民救助の対策協議 (図上演習)	1 災害対策本部等設置運営訓練 (1)原子力災害対策警戒本部・災害対策本部設置運営訓練 2 緊急事態応急対策等拠点施設 (OFC) 運営訓練 (1)オフサイトセンターの立上げ (2)現地事故対策連絡会議の開催 (3)原子力災害合同対策協議会の運営 3 緊急時通信連絡訓練 4 緊急時環境放射線モニタリング訓練 [測定 219地点・2ルート] 5 広報訓練 (1)緊急速報メール (日本語・英語) の配信 (2)HPの活用 等 6 住民避難訓練 (1)住民避難、屋内退避 [参加住民] <input type="checkbox"/> 泊村 225人 <input type="checkbox"/> 共和町 791人 <input type="checkbox"/> 岩内町 2,357人 <input type="checkbox"/> 神恵内村 262人 <input type="checkbox"/> 寿都町 596人 <input type="checkbox"/> 蘭越町 1,173人 <input type="checkbox"/> ニセコ町 818人 <input type="checkbox"/> 倶知安町 1,388人 <input type="checkbox"/> 積丹町 196人 <input type="checkbox"/> 古平町 635人 <input type="checkbox"/> 仁木町 1,106人 <input type="checkbox"/> 余市町 1,844人 <input type="checkbox"/> 赤井川村 153人 (2)学校・社会福祉施設、宿泊施設等に対する避難指示等の伝達 (3)一時滞在場所設置・運営 (4)渋滞を想定した迂回路誘導や交通整理、休憩場所の提供 7 緊急被ばく医療活動訓練 (1)避難地域時検査場所設置 [2箇所、車両 28台、住民 105人検査] (2)負傷者搬送 (3)安定ヨウ素剤の緊急配布 8 物資緊急輸送訓練 (1)生活必需物資の供給 9 その他 (1)原子力防災研修会開催 等	1 災害対策本部等設置運営訓練 (1)災害対策本部設置運営訓練 2 緊急時通信連絡訓練 (1)事故情報の伝達 (2)道によるオフサイトセンター機能の代行 3 広報訓練 防災行政無線による住民広報 4 住民避難訓練 (1)バス避難集合場所の開設 (2)大雪で孤立した住宅からの住民 (要配慮者) の救出 (3)避難道路等の除雪 5 緊急被ばく医療活動訓練 (1)一時滞在者への安定ヨウ素剤 (模擬) の緊急配布 6 その他 (1)泊村、自衛隊、地元消防による住民救助の対策協議 (図上演習) (2)共和町による安定ヨウ素剤の緊急配布体制の確認 (図上演習) (3)冬季におけるオフサイトセンターへの要員参集
防護対策 地区 (避難対象町村等)	PAZ:泊村、共和町 UPZ:屋内退避	PAZ:泊村、共和町 UPZ:岩内町、寿都町、蘭越町、ニセコ町	PAZ:泊村、共和町 UPZ:屋内退避

※福島第一原発事故を踏まえ、オフサイトセンターを移転整備 (平成27年8月3日供用開始)

年度 項目	平成28年度 (2016)	平成29年度 (2017)	
訓練目的	原子力防災に関する防災体制の確立と防災業務関係者の防災技術の向上を図り、併せて防災意識の高揚を図る。		
訓練態様	総合訓練 [国との合同訓練]	要素訓練 (冬季・暴風雪) 総合訓練	
訓練実施日	平成28年11月13日(日)/14日(月)	平成29年2月4日(土) 平成30年2月5日(月)/2月8日(木)	
訓練時間	8:30~17:00/9:00~16:00	9:00~15:40 9:00~15:30/8:40~15:00	
参加機関	364 機関	30 機関 386 機関	
参加人員	▽18,278人 [防災業務関係者 5,523人] [住民参加者 12,755人]	▽461人 [防災業務関係者 403人] [住民参加者 58人]	▽11,744人 [防災業務関係者 3,488人] [住民参加者 8,256人]
事故想定	冷却機能喪失事故 (地震・津波との複合災害)	冷却機能喪失事故	冷却機能喪失事故 (地震・暴風雪との複合災害)
訓練項目 (訓練内容)	<p>1 災害対策本部等設置運営訓練 (1)原子力災害対策警戒本部・災害対策本部設置運営訓練</p> <p>2 緊急事態応急対策等拠点施設(OFC) 運営訓練 (1)オフサイトセンターの立上げ (2)現地事故対策連絡会議の開催 (3)原子力災害合同対策協議会の運営</p> <p>3 緊急時通信連絡訓練</p> <p>4 緊急時環境放射線モニタリング訓練 [測定 195 地点・3 ルート]</p> <p>5 広報訓練 (1)緊急速報メール(日本語・英語)の配信 (2)HPの活用 等</p> <p>6 住民避難訓練 (1)住民避難、屋内退避 [参加住民] □泊村 351人 □共和町 840人 □岩内町 2,099人 □神恵内村 262人 □寿都町 353人 □蘭越町 1,048人 □二七コ町 768人 □俱知安町 2,640人 □積丹町 194人 □古平町 684人 □仁木町 1,310人 □余市町 2,045人 □赤井川村 161人</p> <p>(2)外国人観光客を想定し多言語による誘導・避難 (3)一時滞在場所設置・運営 (4)渋滞を想定した迂回路誘導や交通整理</p> <p>7 原子力災害医療活動訓練 (1)避難地域時検査場所設置 [2 箇所: 車両 16 台、住民 65 人検査] (2)負傷者搬送 (3)安定ヨウ素剤の緊急配布</p> <p>8 物資緊急輸送訓練 (1)生活必需物資の供給</p> <p>9 その他 (1)原子力防災研修会開催 等</p>	<p>1 緊急事態応急対策等拠点施設(OFC) 運営訓練 (1)臨時OFCの開設(道庁危機管理センター) (2)臨時OFCから北海道原子力防災センター(OFC)への移転 (3)TV会議システムを活用した情報共有や意思決定</p> <p>2 緊急時モニタリングセンター(EMC) 運営訓練 (1)臨時EMCの開設(原子力環境センター札幌分室)やOFCへの移転 3 住民避難訓練 (1)PAZ内施設敷地緊急事態要避難者の救出 [住民 1 人] (2)PAZ内住民の避難 [住民 52 人]</p> <p>4 安定ヨウ素剤の緊急戸別配布訓練 [住民 5 人]</p> <p>5 ヘリコプターによる物資緊急輸送訓練 (1)陸上自衛隊ヘリコプターによる可搬型携帯電話基地局の空輸 (2)小樽建設協会による臨時ヘリポート開設のための除雪</p> <p>※国の原子力総合防災訓練の一環として実施</p>	<p>○意思決定訓練 平成30年2月5日(月)</p> <p>1 災害対策本部等設置運営訓練 2 緊急事態応急対策等拠点施設(OFC)運営訓練 (1)現地事故対策連絡会議の開催 (2)原子力災害合同対策協議会の運営</p> <p>3 緊急時通信連絡訓練 4 緊急時環境放射線モニタリング訓練 5 広報訓練</p> <p>○実動訓練 平成30年2月8日(木)</p> <p>1 緊急時環境放射線モニタリング訓練 [測定 179 地点・3 ルート] 2 広報訓練 (1)緊急速報メール(日本語・英語)の配信 等 3 住民避難訓練 (1)住民避難、屋内退避 [参加住民] □泊村 158人 □共和町 568人 □岩内町 548人 □神恵内村 340人 □寿都町 534人 □蘭越町 259人 □二七コ町 647人 □俱知安町 2,449人 □積丹町 201人 □古平町 515人 □仁木町 89人 □余市町 1,735人 □赤井川村 213人</p> <p>(2)外国人観光客を想定した多言語による誘導・避難 (3)一時滞在場所設置・運営 (4)渋滞を想定した迂回路誘導や交通整理 (5)自宅での屋内退避が困難な場合を想定した屋内退避・避難</p> <p>4 原子力災害医療活動訓練 (1)避難地域時検査場所設置 [2 箇所: 車両 24 台、住民 53 人検査] (2)被ばく傷病者の医療措置 (3)安定ヨウ素剤の緊急配布</p> <p>5 物資緊急輸送訓練 (1)生活必需物資の供給</p> <p>6 その他 (1)原子力防災研修会開催 等</p>
防護対策 地区 (避難対象町村等)	PAZ:泊村、共和町 UPZ:岩内町、神恵内村、積丹町、古平町	PAZ:泊村、共和町 UPZ:屋内退避	PAZ:泊村、共和町 UPZ:岩内町、寿都町、蘭越町

年度 項目	平成30年度 (2018)	
訓練目的	原子力防災に関する防災体制の確立と防災業務関係者の防災技術の向上を図り、併せて防災意識の高揚を図る。	
訓練態様	総合訓練	冬季要素訓練
訓練実施日	平成30年10月22日(月)	平成31年2月4日(月)
訓練時間	9:00~15:30	8:30~16:00
参加機関	390 機関	75 機関
参加人員	▽ 14,142 人 [防災業務関係者 3,365 人] [住民参加者 10,777 人]	▽ 483 人 [防災業務関係者 483 人]
事故想定	冷却機能喪失事故 (台風との複合災害)	冷却機能喪失事故 (地震との複合災害)
訓練項目 (訓練内容)	1 災害対策本部等設置運営訓練 2 緊急事態応急対策等拠点施設 (OFC) 運営訓練 (1)現地事故対策連絡会議の開催 (2)原子力災害合同対策協議会の運営 3 緊急時通信連絡訓練 4 緊急時環境放射線モニタリング訓練 [測定 192 地点・2 ルート] 5 広報訓練 (1)緊急速報メール(日本語・英語)の配信 等 6 住民避難訓練 (1)住民避難、屋内退避 [参加住民] <input type="checkbox"/> 泊村 269 人 <input type="checkbox"/> 共和町 688 人 <input type="checkbox"/> 岩内町 1,682 人 <input type="checkbox"/> 神恵内村 254 人 <input type="checkbox"/> 寿都町 653 人 <input type="checkbox"/> 蘭越町 968 人 <input type="checkbox"/> 二セコ町 535 人 <input type="checkbox"/> 倶知安町 2,524 人 <input type="checkbox"/> 積丹町 245 人 <input type="checkbox"/> 古平町 575 人 <input type="checkbox"/> 仁木町 407 人 <input type="checkbox"/> 余市町 1,760 人 <input type="checkbox"/> 赤井川村 217 人 (2)観光客(外国人を含む)に対する情報提供や避難誘導 (3)一時滞在場所設置・運営 (4)孤立集落の発生を想定した陸路・海路・空路を用いた避難 (5)自宅での屋内退避が困難な場合を想定した屋内退避・避難 7 原子力災害医療活動訓練 (1)避難地域時検査場所設置 [2 箇所:車両 20 台、住民 54 人検査] (2)被災者・傷病者の医療措置 (3)安定ヨウ素剤の緊急配布 8 物資緊急輸送訓練 (1)生活必需物資の供給 9 その他 (1)原子力防災研修会開催 等	(ブラインド方式による訓練実施) 1 緊急事態応急対策等拠点施設 (OFC) 運営訓練 (1)オフサイトセンターへの要員参集 (2)複合災害を想定した防災関係機関との対応の調整 (3)防護措置の実施方針を確認・調整 2 災害対策本部等設置運営訓練 (1)道災害対策本部を設置・運営 (2)北海道危機管理センターにおける指揮室の運営 3 緊急時通信連絡訓練 4 緊急時環境放射線モニタリング訓練 (1)道による緊急時モニタリング及び国による EMC 立上げ準備への協力 (2)EMC を拠点としたモニタリングの統括、関係機関との連携 5 広報訓練 (1)OFC プレスルームにおける模擬記者会見の実施 等 6 その他 ゲート型モニターによる車両検査訓練 (1)凍結路面におけるゲート型モニターによる車両検査手順の確認
防護対策 地区 (避難対象町村等)	PAZ:泊村、共和町 UPZ:共和町、二セコ町、倶知安町、仁木町、赤井川村	PAZ:泊村、共和町 UPZ:屋内退避

年度 項目	令和元年度 (2019)	
訓練目的	原子力防災に関する防災体制の確立と防災業務関係者の防災技術の向上を図り、併せて防災意識の高揚を図る。	
訓練態様	要素訓練 (外国人観光客等避難誘導訓練)	総合訓練
訓練実施日	令和元年11月17日(日)	令和2年2月6日(木)/2月13日(木)
訓練時間	9:00~12:00	9:00~16:00
参加機関	10 機関	379 機関
参加人員	▽ 65 人 [防災業務関係者 43 人] [外国人参加者 22 人]	▽ 14,948 人 [防災業務関係者 4,391 人] [住民参加者 10,557 人]
事故想定	冷却機能喪失事故	冷却機能喪失事故 (雪害との複合災害)
訓練項目 (訓練内容)	<p>1 避難誘導訓練</p> <p>(1) 役場と宿泊施設間での通信連絡</p> <p>(2) 外国人宿泊客等への多言語による情報提供や避難誘導</p> <p>(3) 多言語で作成した資料による情報提供</p> <p>2 観光客緊急サポートステーション開設訓練</p> <p>(1) 観光客サポートステーションの開設</p> <p>(2) 通訳による多言語での相談対応</p> <p>(3) 災害情報の提供</p>	<p>○意思決定訓練 令和2年2月6日(木)</p> <p>1 災害対策本部等設置運営訓練</p> <p>2 緊急事態応急対策等拠点施設 (OFC) 運営訓練</p> <p>(1) 原子力災害合同対策協議会の運営</p> <p>3 緊急時通信連絡訓練</p> <p>4 緊急時環境放射線モニタリング訓練</p> <p>5 広報訓練</p> <p>○実動訓練 令和2年2月13日(木)</p> <p>1 緊急時環境放射線モニタリング訓練 [測定 179 地点・3 ルート]</p> <p>2 広報訓練</p> <p>(1) 緊急速報メール(日本語・英語)の配信 等</p> <p>3 住民避難訓練</p> <p>(1) 住民避難、屋内退避 [参加住民]</p> <p>□泊村 230 人</p> <p>□共和町 543 人</p> <p>□岩内町 2,226 人</p> <p>□神恵内村 252 人</p> <p>□寿都町 437 人</p> <p>□蘭越町 1,038 人</p> <p>□二セコ町 695 人</p> <p>□俱知安町 1,628 人</p> <p>□積丹町 335 人</p> <p>□古平町 428 人</p> <p>□仁木町 667 人</p> <p>□余市町 1,886 人</p> <p>□赤井川村 192 人</p> <p>(2) 一時滞在場所設置・運営</p> <p>(3) 渋滞を想定した交通誘導や交通整理</p> <p>4 原子力災害医療活動訓練</p> <p>(1) 避難施設域時検査場所設置 [2 箇所: 車両 34 台、住民 48 人検査]</p> <p>(2) 被ばく傷病者の医療措置</p> <p>(3) 安定ヨウ素剤の緊急配布</p> <p>5 物資緊急輸送訓練</p> <p>(1) 生活必需物資の供給</p> <p>6 その他</p> <p>(1) 原子力防災研修会開催 等</p>
防護対策 地区 (避難対象町村等)	外国人観光客宿泊施設: 積丹町 観光客緊急サポートステーション: 北海道庁	PAZ: 泊村、共和町 UPZ: 神恵内村、積丹町、古平町、余市町

年度 項目	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	
訓練目的	原子力防災に関する防災体制の確立と防災業務関係者の防災技術の向上を図り、併せて防災意識の高揚を図る。		
訓練態様	総合訓練	総合訓練	要素訓練 (代替オフサイトセンター開設・運営訓練)
訓練実施日	令和2年10月31日(土)	令和3年10月28日(木)	令和4年2月22日(火)
訓練時間	8:45~16:00	8:30~14:30	13:00~16:00
参加機関	352 機関	345 機関	43 機関
参加人員	▽ 4,593 人 [防災業務関係者 1,551 人] [住民参加者 3,042 人]	▽ 10,924 人 [防災業務関係者 3,207 人] [住民参加者 7,717 人]	▽ 14 人 [防災業務関係者 14 人]
事故想定	冷却機能喪失事故 (感染症流行下における地震との複合災害)	冷却機能喪失事故 (感染症流行下における台風との複合災害)	原子力災害時における オフサイトセンターの機能不全
訓練項目 (訓練内容)	1 災害対策本部等設置運営訓練 2 緊急事態応急対策等拠点施設 (OFC) 運営訓練 (1)現地事故対策連絡会議の開催 (2)原子力災害合同対策協議会の運営 3 緊急時通信連絡訓練 4 緊急時環境放射線モニタリング訓練 [測定 181 地点・2ルート] 5 広報訓練 (1)防災行政無線や Twitter による広報 等 6 住民避難訓練 (1)住民避難、屋内退避 [参加住民] <input type="checkbox"/> 泊村 23 人 <input type="checkbox"/> 共和町 30 人 <input type="checkbox"/> 岩内町 136 人 <input type="checkbox"/> 神恵内村 10 人 <input type="checkbox"/> 寿都町 553 人 <input type="checkbox"/> 蘭越町 24 人 <input type="checkbox"/> 二セコ町 237 人 <input type="checkbox"/> 倶知安町 552 人 <input type="checkbox"/> 積丹町 46 人 <input type="checkbox"/> 古平町 632 人 <input type="checkbox"/> 仁木町 361 人 <input type="checkbox"/> 余市町 406 人 <input type="checkbox"/> 赤井川村 46 人 (2)一時滞在場所設置・運営 (3)感染症対策を講じた避難所の開設・運営 (外国人への多言語による情報伝達) (4)孤立地域の発生を想定した陸路・海 路・空路を用いた避難 (5)渋滞を想定した交通誘導や交通整理 7 原子力災害医療活動訓練 (1)避難地域時検査場所設置 [2 箇所: 車両 41 台、住民 51 人検査] (2)被ばく傷病者の医療措置 (3)安定ヨウ素剤の緊急配布 8 物資等緊急輸送訓練 (1)生活必需物資の供給 (2)燃料、電力供給 9 その他 (1)原子力防災研修会開催 等	1 災害対策本部等設置運営訓練 2 緊急事態応急対策等拠点施設 (OFC) 運営訓練 (1)現地事故対策連絡会議の開催 (2)原子力災害合同対策協議会の運営 3 緊急時通信連絡訓練 4 緊急時環境放射線モニタリング訓練 [測定 200 地点・2ルート] 5 広報訓練 (1)ホームページや Twitter による広報 等 6 住民避難手順の確認訓練 (1)住民見立て避難、屋内退避 [参加者] <input type="checkbox"/> 泊村 10 人 <input type="checkbox"/> 共和町 617 人 <input type="checkbox"/> 岩内町 316 人 <input type="checkbox"/> 神恵内村 239 人 <input type="checkbox"/> 寿都町 337 人 <input type="checkbox"/> 蘭越町 0 人 <input type="checkbox"/> 二セコ町 797 人 <input type="checkbox"/> 倶知安町 2,806 人 <input type="checkbox"/> 積丹町 216 人 <input type="checkbox"/> 古平町 704 人 <input type="checkbox"/> 仁木町 606 人 <input type="checkbox"/> 余市町 1,059 人 <input type="checkbox"/> 赤井川村 7 人 <input type="checkbox"/> その他訓練要員 3 人 (2)要配慮者屋内退避・避難 (3)放射線防護施設運営 (4)一時滞在場所設置・運営 (5)感染症対策を講じた避難所開設 (6)外国人避難者への情報伝達 (多言語による情報提供及び相談対応) (7)孤立地区の発生を想定した陸路・空路を 用いた避難 (8)避難経路緊急迂回誘導(ブラインド方式) (通行止めによる緊急的な迂回路への誘導) (9)車両動態管理・情報伝達 7 原子力災害医療活動訓練 (1)安定ヨウ素剤の緊急配布 (2)避難地域時検査場所開設・運営 [1 箇所: 車両 17 台、住民 40 人検査] (3)被ばく傷病者の医療措置 8 発電機による電力供給訓練	1 機材移転に係る国・道・関係自治体等 での調整及び情報共有 2 要員の移転と資機材搬送に係る手順 の確認 3 代替オフサイトセンターの開設及び 運営体制の確認
防護対策 地区 (避難対象町村等)	PAZ:泊村、共和町 UPZ:岩内町、寿都町、蘭越町、二セコ町	PAZ:泊村、共和町 UPZ:共和町、倶知安町、仁木町、赤井川村	代替オフサイトセンター: 喜茂別町農村 環境改善センター

年度 項目	令和4年度 (2022)	
訓練目的	原子力防災に関する防災体制の確立と防災業務関係者の防災技術の向上を図り、併せて防災意識の高揚を図る。	
訓練態様	総合訓練	要素訓練 (オフサイトセンター初動対応訓練)
訓練実施日	令和4年10月31日(月)	令和5年2月9日(木)
訓練時間	9:00~15:00	13:00~16:30
参加機関	336 機関	50 機関
参加人員	▽ 11,162 人 [防災業務関係者 2,824 人] [住民参加者 8,338 人]	▽ 138 人 [防災業務関係者 138 人]
事故想定	冷却機能喪失事故 (感染症流行下における地震との複合災害)	冷却機能喪失事故
訓練項目 (訓練内容)	1 災害対策本部等設置運営訓練 2 緊急事態応急対策等拠点施設 (OFC) 運営訓練 (原子力災害合同対策協議会の運営) 3 緊急時通信連絡訓練 4 緊急時環境放射線モニタリング訓練 [測定 153 地点・2ルート] 5 広報訓練 (ホームページや Twitter による広報 等) 6 住民避難訓練 (1)住民避難、屋内退避 [参加住民] <input type="checkbox"/> 泊村 125 人 <input type="checkbox"/> 共和町 266 人 <input type="checkbox"/> 岩内町 300 人 <input type="checkbox"/> 神恵内村 232 人 <input type="checkbox"/> 寿都町 384 人 <input type="checkbox"/> 蘭越町 945 人 <input type="checkbox"/> ニセコ町 680 人 <input type="checkbox"/> 倶知安町 3,226 人 <input type="checkbox"/> 積丹町 283 人 <input type="checkbox"/> 古平町 829 人 <input type="checkbox"/> 仁木町 621 人 <input type="checkbox"/> 余市町 393 人 <input type="checkbox"/> 赤井川村 54 人 (2)要配慮者屋内退避・避難 (3)放射線防護施設運営 (4)一時滞在場所設置・運営 (5)感染症対策を講じた避難所開設・運営 (6)孤立地区の発生を想定した陸路・海路・空路 を用いた避難 (7)避難経路緊急迂回誘導(ブラインド方式) (通行止めによる緊急的な迂回路への誘導) (8)バス運転手の防護対策 (車両中継ポイント開設) (9)災害時外国人支援センターの開設 (10)観光客緊急サポートステーションの開設 7 原子力災害医療活動訓練 (1)安定ヨウ素剤の緊急配布 (2)避難地域時検査場所開設・運営 [2箇所:車両 29 台、住民 88 人検査] (3)被ばく傷病者の医療措置 8 発電機車による電力供給訓練 9 その他 (原子力防災研修会開催 等)	1 オフサイトセンターへの緊急参集訓練 2 オフサイトセンター立ち上げ訓練 3 オフサイトセンター運営訓練 (1)事故の状況や防災関係機関の対応状況を収集・整理 (2)TV 会議による情報共有と対策の確認 4 通信連絡訓練
防護対策 地区 (避難対象町村等)	PAZ:泊村、共和町 UPZ:泊村、神恵内村、積丹町、古平町、余市町	PAZ:泊村、共和町 UPZ:屋内退避の準備

訓練参加住民アンケート調査結果 (総合訓練：令和4年10月31日実施)

1 調査目的

避難に際しての住民意識に関することを調査し、避難等に関する施策の基礎資料を得る

2 調査対象

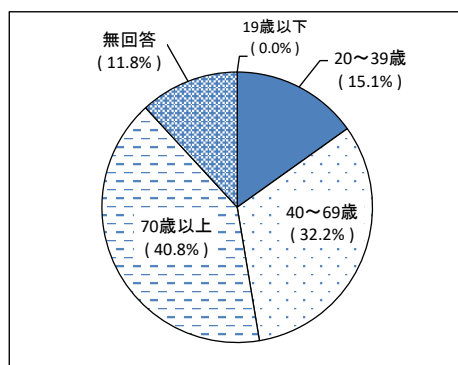
避難訓練参加者（ただし、保育所・小学生・中学生を除く）

泊村	33名
共和町	18名
俱知安町	24名
積丹町	31名
古平町	10名
仁木町	2名
余市町	34名
計	152名

3 調査実施方法

アンケート用紙を配布

4 年代別回答状況

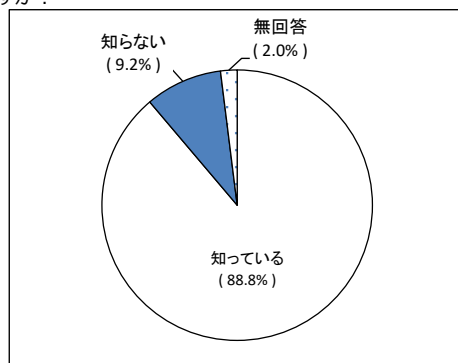


5 調査結果

<設問内容>

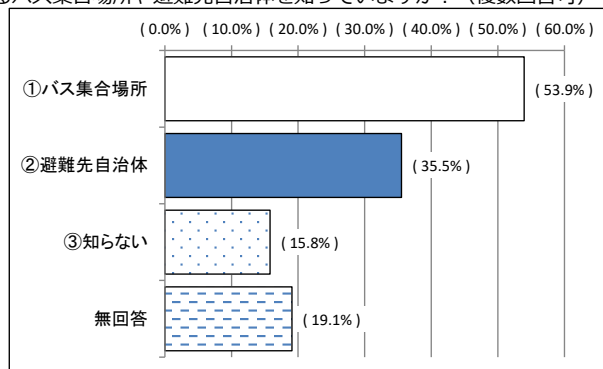
問1. あなたのお住まいの地域は、泊発電所から概ね5キロ圏内（PAZ）、泊発電所から概ね5キロから30キロ圏内（UPZ）のどの区分に該当するのかわかりますか？

- ① 知っている
- ② 知らない



問2. あなたがお住まいの地域の原子力災害時におけるバス集合場所や避難先自治体を知っていますか？（複数回答可）

- ① バス集合場所を知っている
- ② 避難先自治体を知っている
- ③ 知らない

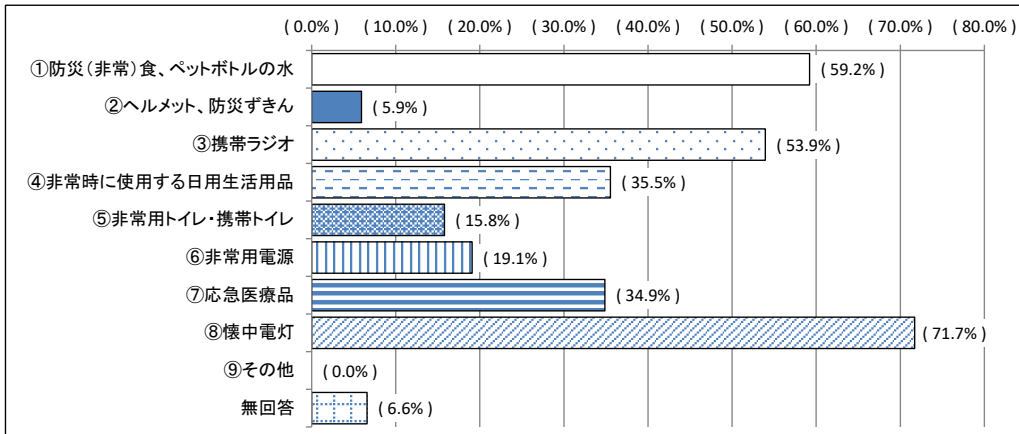


問3. 防災グッズや感染症対策グッズをご家庭で備えていますか？

(1) 防災グッズ (複数回答可)

- ① 防災(非常)食、ペットボトルの水
- ② ヘルメット、防災ずきん
- ③ 携帯ラジオ
- ④ 非常時に使用する日常生活用品
- ⑤ 非常用トイレ・携帯トイレ
- ⑥ 非常用電源
- ⑦ 応急医療品
- ⑧ 懐中電灯
- ⑨ その他回答

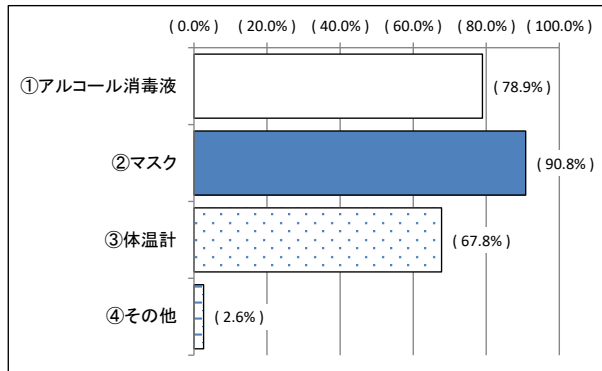
◇その他回答
なし



(2) 感染症対策グッズ (複数回答可)

- ① アルコール消毒液
- ② マスク
- ③ 体温計
- ④ その他回答

◇その他回答
・石けん
・パルスオキシメーター
・コロナ検査キット



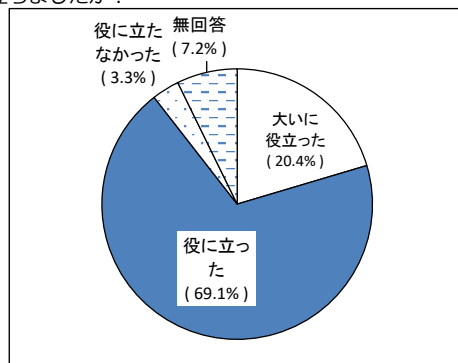
問4. 本年度の訓練に参加し、原子力防災意識の向上や理解促進に役立ちましたか？

- ① 大いに役立った
- ② 役に立った
- ③ 役に立たなかった

◇意見

- ・万が一の事態について考えるきっかけを持つことは大事だと思うから。
- ・初めての体験でしたが、一番関心を持つべき地域で仕事に携わっているのだと感じた。一年に一回は大規模訓練は必要だと思うが、バス内で詳しい状況等いろいろなお話があると良いのかなと思いました。
- ・実際に起きてしまった場合の対応などを知ることができたから。
- ・実際に身体を動かしてみることで非常時に役立つと感じた。
- ・訓練に参加することで防災に対する意識が高まる。
- ・あまり身近に感じていなかったのが、参加して「安定ヨウ素剤」なるものの名前、役割等を知り、ためになりました。
- ・普段の訓練では原子力の事を扱う訓練があまりないので役に立ちました。

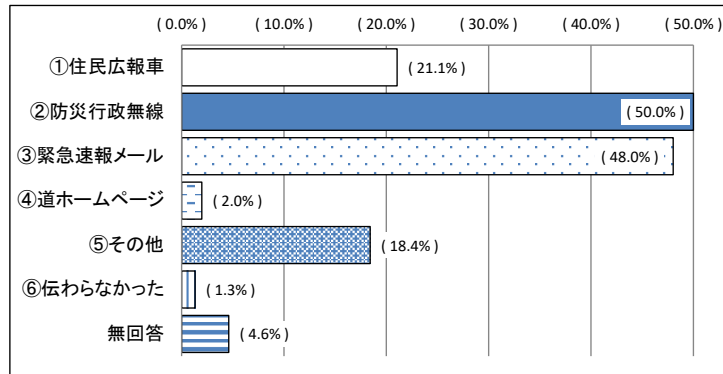
など



問5. 今回の訓練では、さまざまな広報手段により情報の発信を行いました。どのような広報手段であなたに情報が伝わりましたか？（複数回答可）

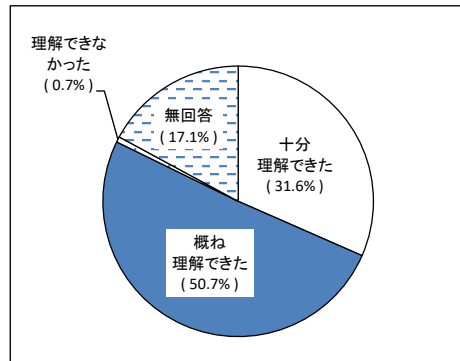
- ① 住民広報車
- ② 防災行政無線
- ③ 緊急速報メール
- ④ 道ホームページ
- ⑤ その他回答
- ⑥ 伝わらなかった

◇その他回答
・IP電話
・役場からのFAX など



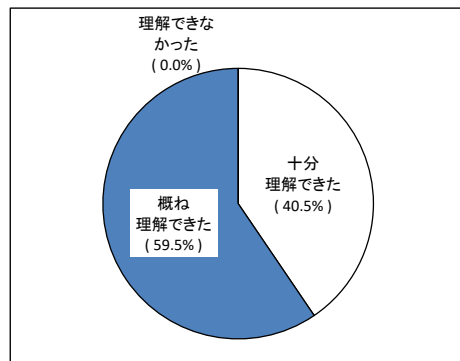
問6. 問5で「⑥」以外を選んだ方以外にお聞きします。
訓練広報の内容は理解できましたか？

- ① 十分理解できた
- ② 概ね理解できた
- ③ 理解できなかった



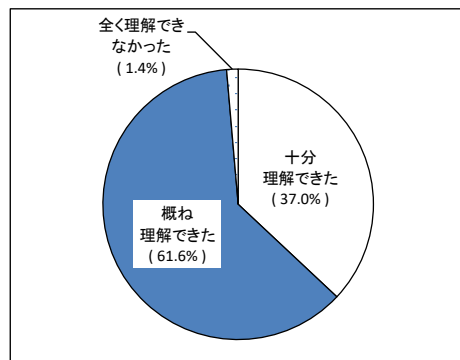
問7. 安定ヨウ素剤の配布を受けた方にお伺いします。
安定ヨウ素剤の配布を受けた際の説明は理解できましたか？

- ① 十分理解できた
- ② 概ね理解できた
- ③ 理解できなかった



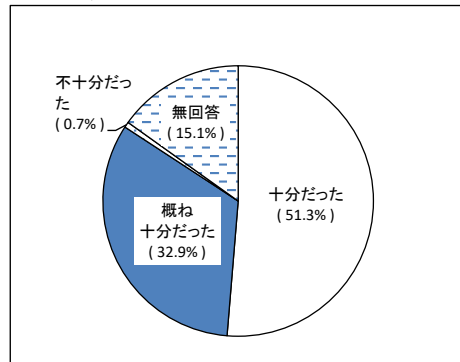
問8. 避難退域時検査を受けた方にお伺いします。
避難退域時検査場所での検査の流れは理解できましたか？

- ① 十分理解できた
- ② 概ね理解できた
- ③ 全く理解できなかった



問 9. バス避難や避難所で検温や手指消毒等の感染症対策を実施しましたが、十分だと感じましたか？

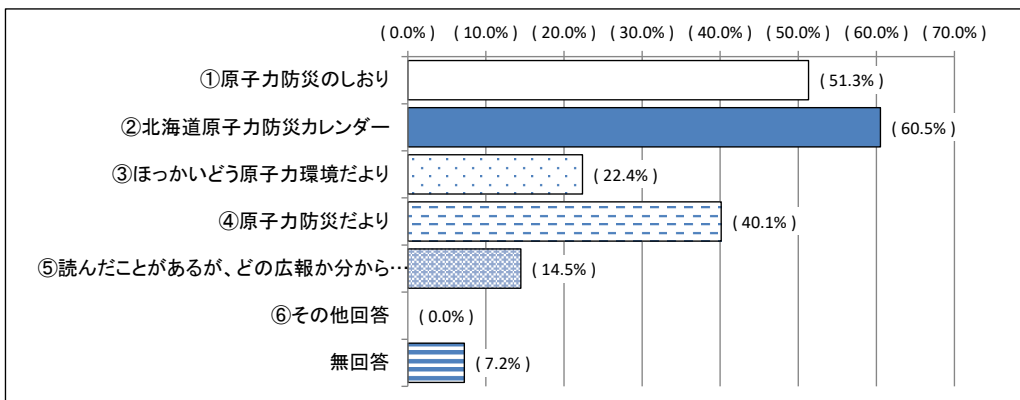
- ① 十分だった
- ② 概ね十分だった
- ③ 不十分だった



問 10. 北海道では啓発資料を配布し、原子力防災について広報を行っていますが、あなたが目にしたことがある広報は何ですか？（複数回答可）

- ① 原子力防災のしおり
- ② 北海道原子力防災カレンダー
- ③ ほっかいどう原子力環境だより
- ④ 原子力防災だより
- ⑤ 読んだことがあるが、どの広報かわからない
- ⑥ その他回答

◇その他回答
なし



問 11. よりよい広報にするため、どのような改善が必要だと思いますか？

- ・防災グッズなどの紹介。
- ・地区ごとに説明会を開くなどして住民の疑問に具体的に答える。
- ・様々な媒体を活用した、幅広い住民に周知できるような広報。
- ・当該意識を持つために、具体的に避難が必要な状況を周知しておく。
- ・普段の生活で必ず目に入る所等にポスターを貼るべき。
- ・言葉での説明も大事ですが、絵文字などを多く使って伝わりやすくしてほしい。

など

【自由意見】今回の訓練、避難など全般に関するご感想、ご意見やご要望があればお聞かせください。

- ・くり返し繰り返し伝えていくこと、訓練していくことが大切。
- ・参加しやすい環境(休日開催)など。
- ・楽しいイベントと同時に行い、より参加したくなるようにするなどの工夫がほしい。
- ・町村に長期滞在している町外の人への対応も検討してほしい。
- ・今回の様な訓練を行うことで緊急事態が起きた時でも慌てずに行動できるようになると思うので参加できて良かったです。
- ・コロナ禍なので難しかったと思いますが、避難訓練は大勢の人が参加できる形の方がより良いと思います。
- ・人数も少なくのんびりしていて緊迫感がない。実際に事故が起きたらと思うと不安です。
- ・実際の作業状況を目で見て確認でき、理解が深まった。
- ・子どもがいるのもう少し時間に余裕があると助かります。
- ・避難先での全体的な指示が必要。情報が錯綜して、行動判断ができなかった。
- ・一年に一回は必要だと思うが、もう少し具体的に状況の説明や訓練の意義的なものも含めて、バス内でのお話があると良いのではと思いました。
- ・距離感が分かり現実味がわかりました。避難が必要となった場合には、今回の経験が活きると思います。